

# \*ピースウィンズ・ショップから\*

## カレンダー、チョコレート販売開始

近日、冬を感じるような寒さが加わってまいりましたがみなさまいかがお過ごしでしょうか?

今年も残すところあとわずか。秋冬限定商品のピープルツリーのチョコレート全5種類の販売を開始しました。

また、スタッフが支援の合間に撮影したPWJオリジナルカレンダー「Smile of The World」も完成しました。B4では大きいのでA4にしてもらいたいと皆さまからいだいていたご意見を反映し今年はA4サイズとしました。ページ構成も改訂し、お値段も大幅に変更してのリニューアルです。職場に、ご自宅に、プレゼントにぜひご活用ください。



## 支援地レポート

### シリア

PWJが活動するイラク北部では、シリアで激化する内戦を逃れてイラクに流入した難民が多くいます。長引く避難生活においても、子どもたちが安全な環境で継続して教育を受けられるよう PWJは現在4か所の難民キャンプと協働して小学校の仮設校舎の建設を行っています。



### スリランカ

PWJは東部トリンコマレ県にて、内戦終了後にふるさとへ戻る人びとの再定住を支援しています。地元の酪農組合を通して良質な乳牛や資材を提供し、酪農家がこの牛から絞った乳を買って収入につなげています。また酪農組合の能力強化や乳製品の製造など、幅広く活動を行っています。



### フィリピン

11月8日にフィリピン中部を横断した超大型台風30号がもたらした甚大な被害を受け、PWJは初動チームを現場に派遣し、被災者支援を開始します。フィリピンのレイテ島およびサマル島において、現地の支援団体と連携して、食糧や衛生用品などを他団体からの支援が届いていない15,000世帯にできるだけ早く届ける予定です。



## ピースウィンズ・ニュース

**peace winds**  
JAPAN

### 支援のプロを、世界の現場へ



# コミュニティ再生を さらに

—東日本大震災2年半後の支援—



高齢者と子どもが接する機会も大切



ワークショップで手作り作り

### 高齢者らが働き集うための「いきがいサポートセンター」

宮城県南三陸町を襲った津波は、沿岸部にあったシルバー人材センターの事務所と倉庫兼作業場も押し流しました。センターは、ワカメやウニ、カキなどの養殖にかかる軽作業、植木の手入れや草刈りなどの作業を働く意欲のある高齢者にあっせんしていました。センターでは、竹籠づくりや書道など「シルバー友の会」の活動も行われ、「技を持った人が興味のある人に教え、いきいきして」と元事務局長の鈴木清美さん。しかし、センターは再建を断念し、今秋、解散。水産加工業などにも影響があるほか、「友の会の活動もなくなって、みんなバラバラ」(鈴木さん)。高齢者が仮設住宅にこもる一因ともいわれています。

ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)では、かつてセンターが果たしていた軽作業などのあっせんサービスと高齢者・地域の人びとの交流空間を再生するため、「いきがいサポートセンター」(仮称)を建設します。事務所、作業場のほか、社会的弱者をはじめとする地域住民に開放するスペースやコミュニティカフェを設けます。完成目標は2014年3月。地元の人が中心となった運営とする計画です。

## 震災記録誌で地域と世代を結びつけ

コミュニティを再生・強化していくためには、地域の体験が地域のなかで語られ、地域のなかで言い伝えられることも重要です。震災体験の共有は、今後の防災のために大きな役割を果たします。

こうしたことからPWJは、岩手県陸前高田市の広田町自主防災会による震災記録誌の制作を支援しました。津波襲来時の写真や住民の作文、地区住民の3分の2にあたる約2400人の避難行動などに関するアンケート、復旧過程などをまとめた「広田の未来（あした）に光あれ」は9月末に完成。「低いところに住家を建てるな」などの教訓が刻まれた地区内の津波記念碑についても詳しく紹介しました。

震災記録製作委員会事務局の長野昭文さんは「この地域は、明治三陸津波（1896年）、昭和三陸津波（1933年）で大きな被害を受けながら、世代交代のたびに教訓は忘れられ、被害を出してきました。今度こそ、教訓を次の世代に伝えなければ」と意義を話してくれました。



仮設住宅に入居している広田町民へ配布

戸羽市長（右）に記録誌を贈呈する  
自主防災会の黄川田会長

## 観光と交流の視点で連続イベント

宮城県気仙沼市唐桑町では、地域再生に観光と交流の視点を取り入れた取り組みを実施しました。唐桑町では震災前から過疎化が進み、震災で漁業が大きな打撃を受けてからは、人口減少に拍車がかかっています。

そこでPWJは、現役漁師との海中観察や、鳴き砂で知られる九十九島を巡るシーカヤックツアーなど、地元の「達人」たちと一緒に地域の魅力を体験する連続イベント「Re;us World（リアスワールド）」を、NPO法人あすわとともに開催しました。

自分の考えたデザインを発表!  
夏休みに合わせて20のイベントを開催。イベントにはのべ200人以上が参加。参加者を対象にしたアンケートでは、町外から参加したという回答が6割以上で、イベントが町内外の人の交流の場となっていることがわかりました。



## 伝統工芸を通じて地域経済を活性化

震災は、伝統工芸にも大きな影響を与えました。道路網が寸断されたために販路を失ったり、震災後の消費の落ち込みによる影響を受けたりすることもありました。地域経済の活性化とコミュニティの再生を図るために、PWJは伝統工芸の製品開発に関わる支援を行い、2013年10月、東京で作品発表会を開催しました。

宮城県仙台市、「熊野洞」のアーティスト、熊野聰さんは、震災で工房やギャラリーにも被害を受けたものの、「周囲の応援を励みに、てしごとを再開することができた」と話します。

震災と原発事故で大きな痛手を受けた福島県からは、「からむし織」の本名民子さん（奥会津昭和村振興公社）が参加。着物の需要が少なくなった現代に合わせ、優れた吸湿性と速乾性を生かした寝具に仕上げました。

「福島は、今も大変な思いをしている人がたくさんいます。それでも、少しずつ前を向いて進んでいきたいのです」としっかりと前をみすえて話していました。



からむし織を披露する本名さん

## 民間緊急ヘリのテイクオフを支援

大災害が発生すると、道路の分断により孤立する場所が多数発生します。県や自衛隊のヘリコプターにも限りがあり、民間のヘリコプターが活用できれば、有効な緊急支援を実施することが可能になります。

こうしたなか、2012年、宮城県気仙沼市に緊急搬送ヘリコプターを運航するNPO All Round Helicopter(オールラウンドヘリコプター、ARH)が設立されました。災害時のみならず、平時の地域医療などへの貢献も大きいと考えられることから、PWJは同市内への格納庫建設を支援し、各種の資機材を提供しました。



PWJが支援した格納庫でARHと打ち合わせをするPWJ角免（左）

## 本部事務所が広島に移転しました

PWJは従来の海外での活動に加え、国内で展開する事業の拡大に伴い、広島に本部を移転しました。これを機に、PWJの組織・機能を分散し、国内での大規模災害に備えた体制を充実させ、より質の高い活動を展開できるよう努めています。なお、寄付に関するお問い合わせ、フェアトレード商品の発注・発送業務については、これまでと同様に東京事務所にて通常通り受け付けます。

※フリーダイヤルとE-mailアドレスは変わりません。

### 新本部事務所

〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田 1161-2 2F

0847-89-0885(代表)

フリーダイヤル 0120-252-176

### E-mail

meet@peace-winds.org

## 殺処分ゼロ「1000日計画」キックオフイベントを開催

広島県神石高原町で災害救助犬の育成や保護犬活動に取り組んでいるPWJは、9月20日の動物愛護週間を起点に1000日間で広島県の犬殺処分をゼロにする計画に挑戦します。9月26日に東京・市ヶ谷で開催されたキックオフイベントでは、約100名に来場いただきました。



神石高原町での譲渡会

## お知らせ

## PWJボランティアさんの声

### グローバルフェスタ2013にブース出展しました

現在、約200名の方がPWJボランティアとして登録されています。平日の事務所内の作業からイベント企画まで、さまざまな分野で活躍しています。



PWJボランティアのみなさんと

PWJは10月5日、6日に東京・日比谷公園で行われた国際協力イベント「グローバルフェスタ」にブース出展し、シリア難民支援など活動紹介をはじめ、ピースコーヒーなどの販売を行いました。

・草野愛美さん（学生） ボランティア歴1年

とにかくあっという間の二日間でした。スタッフさんをはじめ、年代の違うボランティアの方々と、なにかひとつのことを作り上げていくのは大変なことだけれど、とても素晴らしいことだと改めて感じました。

・林千恵さん（社会人） ボランティア歴1年

フェアトレード商品の売り上げは、皆さんのがんばりと美声のおかげですね。とってもいい経験をさせていただけたと感謝しております。今回のイベントで、大好きなピースコーヒーを通じて人の輪が広がり、いい経験ができました。

・小林恵介さん（社会人） ボランティア歴3年

フェアトレード商品の販売と一緒に担当したボランティアさんが、今年初めのボランティア活動を通じて知り合いだったのでスムーズにこなせました。ボラ同士が単発の関わりではなく、繋がっていけたということも非常にうれしく感じました。

※体験談より一部抜粋



## ご不要の本・CD・書き損じはがきを支援に役立ててください

支離書  
サービスの  
窓

ご不要になった本やCDなどをブックオフに買い取っていただき、買い取り代金をPWJの支援活動に役立てて「ブックキフ」はホームページからお申込みいただけます。送料・手数料は無料です。

<http://peace-winds.org/support/book.html>

書き損じや未使用の「官製はがき」は、直接PWJの東京事務所へお送りください（1,000円以上の場合、受領証が必要な方はお知らせください）。

〒102-0074

東京都千代田区九段南4-7-16  
市ヶ谷KTビル 5階

メディア  
掲載報告

- ・9/24 三陸新報にてPWJが三井化学株式会社及び南三陸町復興推進ネットワークと連携して実施した、子どもたち向け化学実験教室「ふしげ探陥隊」について掲載。
- ・10/4 朝日新聞オピニオン面「私の視点」にピースウィンズ・ジャパン代表理事大西の見解が掲載
- ・10/5 東海新報、10/6 岩手日報にて、陸前高田市広田町の記録誌 戸羽市長への贈呈式の様子が掲載

